



Newsletter No.13

歴史都市を守る 「文化遺産防災学」推進拠点

立命館大学 グローバル COE プログラム

目次

- 「文化遺産防災」は社会的にどのくらい着目されているのか? …… 1
小川 圭一 (理工学部都市システム工学科 准教授)
- コンペティションと歴史都市防災シンポジウム '09 を実施 … 3
- トリエステ大学 (伊) で国際ワークショップを開催します …… 6
- 上高野学区、衣笠学区自治会との共同研究協定を締結しました …… 6

■ 研究トピック ■

「文化遺産防災」は社会的にどのくらい着目されているのか？

小川 圭一（理工学部都市システム工学科 准教授）

災害の多い日本では、新聞、テレビなどのマスメディアにも、防災や災害に関する報道がしばしば登場します。それでは、そのようなマスメディアの報道の中で、文化遺産の防災や災害に関するものはどのくらいあるのでしょうか。

図-1は、全国紙4紙と地方紙8紙について、Web上の記事検索サービスを利用して、2004年～2007年の4年間の防災に関するキーワードを含む記事の数を調べたものです。いずれの新聞でも多くの記事が取り上げられていますが、地方紙では東海、北海道、兵庫といった、近年に大きな災害が発生した地域や、今後の災害（東海地震・東南海地震）が予想されている地域を販売エリアとする新聞で、防災に関する記事が多く取り上げられている様子がわかります。

図-2は、このような防災に関する記事の中で「文化財」というキーワードを含む記事の数を調べたものです。また図-3は、この2つから、防災に関する記事の中で「文化財」というキーワードを含む記事の割合を調べたものです。防災と文化財といえばまったく別の分野というイメージがありますが、意外にも防災に関する記事の中にも文化財を扱ったものが多く含まれていることがわかります。また、京都のように数多くの文化財がある地域では、防災に関する記事の中にも文化財を扱ったものが多く含まれていることがわかります。

もちろん、マスメディアの報道が世論と完全に一致しているというわけではไม่ใช่でしょう。しかし、マスメディアがある内容を記事として取り上げて報道し、それが一定のシェアで販売されているということは、その報道内容の傾向はその地域の人々の意識をある程度は反映しているということになります。防災や災害に関する記事の中にも文化財を扱ったものが含まれているということは、文化財が災害から守るべきものである、と人々が考えていることを示しています。

文化遺産防災を公共政策の1つとしておこなうということは、我々が納めている税金の使い道を決めることでもあります。さまざまな公共政策の中で文化遺産防災の必要性を訴えていくためには「なぜ『公共政策として』文化遺産防災が必要なのか？」という問いに対しても、その答えを客観的に示していくことが必要になります。このように、文化遺産防災の必要性を数値として客観的にあらわすことにより、文化遺産防災を考えることの重要性を示していくことも「文化遺産防災学」の重要な役割であると考えています。

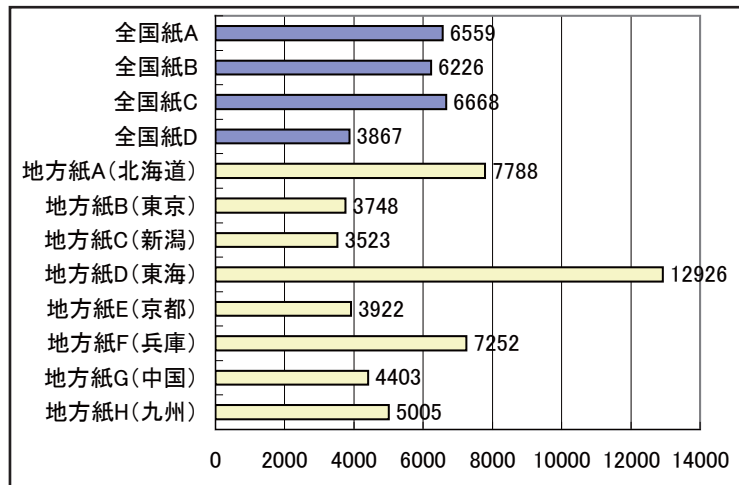


図-1 防災に関する新聞記事の数

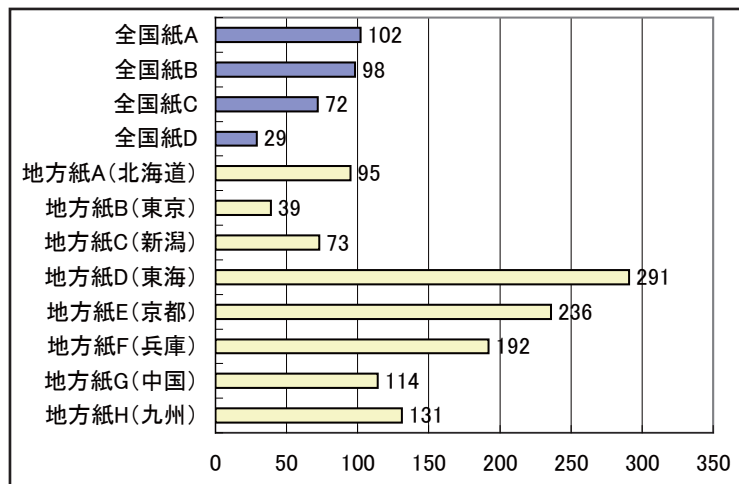


図-2 文化遺産防災に関する新聞記事の数

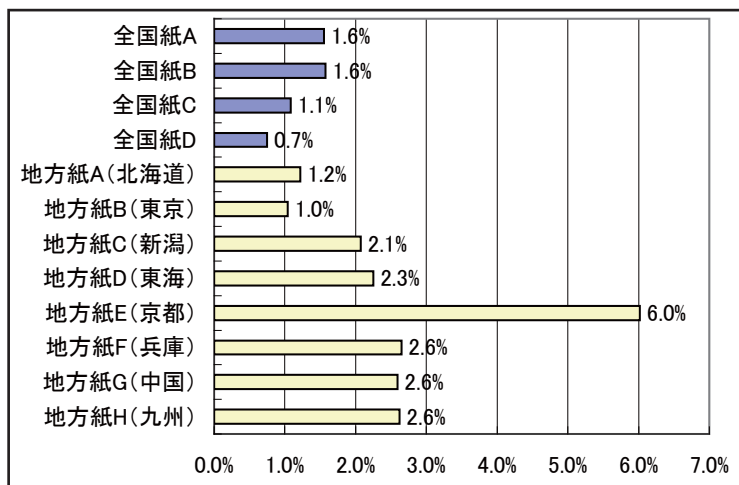


図-3 文化遺産防災に関する新聞記事の割合

コンペティションと歴史都市防災シンポジウム '09 を実施

2009年6月20日(土)に東本願寺において、第1回文化遺産防災アイデアコンペティションの第2次審査会と表彰式が実施されました。全国から68作品の応募をいただき、その中から5月の第1次審査会で選抜された7作品について応募者による発表と、8名の審査員による講評会が公開で行われました。講評会後には東本願寺の飛び地境内である枳殻邸において、特別賞を含む計10作品に対する表彰式が行われました。結果の詳細とこれまでの経緯が、コンペティションのホームページ(<http://www.bunkaisan-competition.jp>)でご覧いただけます。

会場には一般の方を含め約180名のご臨席をいただきました。応募者の皆様および会場にご参加いただきました皆様のご協力に感謝を申し上げます。なお、全作品の展示会を立命館大学歴史都市防災研究センター(案内図は裏表紙に記載。)において、2009年9月まで開催しておりますので、ぜひご覧ください。

また、同日同会場で、歴史都市防災シンポジウム'09を開催しました。全国から集まった歴史都市や文化遺産の防災に関する41件の研究発表と活発な討議が行われました。一般の方も含めて200人以上の参加があり、歴史都市防災に関する関心の高さがうかがえました。発表の題目はHPでご覧いただけます。(http://www.rits-dmuch.jp/dl_files/sympo090620/program.pdf) 来年2010年も6月頃にシンポジウムを開催する予定です。なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol. 3」として刊行しております。ご希望の方にはお送りいたしますので、事務局までお問い合わせください。

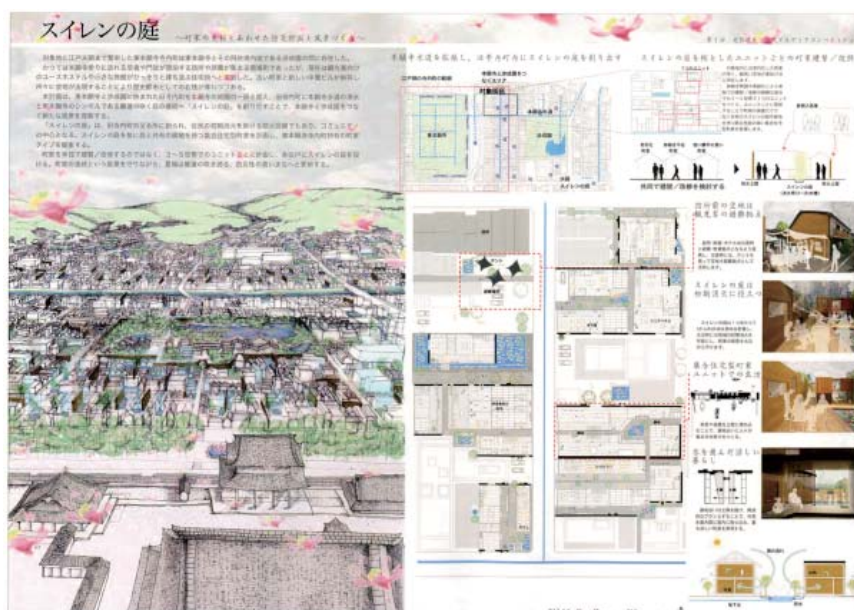


写真1 早稲田大学大学院 野口鮎子さん他1名による最優秀賞受賞作品「スイレンの庭～町家の更新とあわせた防災計画と風景づくり～」

トリエステ大学（伊）で国際ワークショップを開催します

8月23日から8月31日まで、イタリアのトリエステ大学において、立命館大学歴史都市防災研究センターと、トリエステ大学およびタマサート大学の3大学による合同ワークショップを開催します。昨年のバンコクに引き続き第2回目の国際ワークショップとなります。

今回のワークショップでは、ラクイラとウディネの地震災害、また、ベネチアの浸水のケースも取り上げます。特にラクイラの自治体と大学の研究者が参加する、組石造の歴史都市の防災についての検討会議を予定しております。日本側からは、鐘ヶ江教授をはじめとして、教員、PD、大学院生による5名が参加します。

上高野学区、衣笠学区自治会との共同研究協定を締結しました

歴史都市防災研究センターならびに立命館大学 GCOE 文化遺産防災学推進拠点では、歴史地区の地域防災計画の拡充へ向けた自治会との2年間にわたる共同調査研究協定を、上高野学区（左京区）、衣笠学区（北区）と締結しました。

今後、安心安全マップ調査やコミュニティ持続計画（SCP）の策定、災害対応型自販機を用いた被災直後のコミュニティ飲料水確保プログラム、文化財のコミュニティ防災、外国人観光客のメッセージボードを使った避難誘導等の調査研究を、自治会と連携して進める予定です。

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点
Newsletter No.13
(2009年8月号)

発行

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点

衣笠事務局（本部）：

立命館大学歴史都市防災研究センター

〒603-8341

京都市北区小松原北町 58

TEL: 075-467-8801

FAX: 075-467-8825

Email: rekibou @ st.ritsume.ac.jp



びわこ草津キャンパス事務局：

立命館大学 防災システム

リサーチセンター 111号室

〒525-8577

滋賀県草津市野路東 1-1-1

TEL: 077-561-5083

